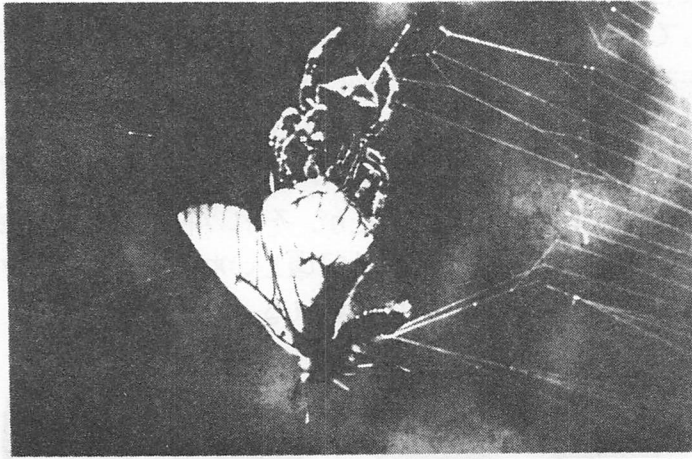


ウスバシロチョウを捕食するクモ

足立義弘



今年の神鍋でのウスバシロチョウのマーキング調査の際、ウスバシロチョウがクモの網にかかっているのを数ヶ所で目撃した。クモの網はほとんど林縁部の木の枝や草間に張られており、1つの網に1頭から多いところで4頭くらいかかっていた。造網性のクモは毎日網を張り直すことが知られているが、観察によると翌日も同じ場所に張られた網の近くにウスバシロチョウがかかっていた。このことはウスバシロチョウの成虫の発生期間中にかなりの個体がクモの餌食になっていることを想像させるものである。

またクモが網を張っている高さは地面より1m前後であり、ウスバシロチョウの飛翔する高さとうまく重なっているように思われた。このことについては具体的に調べたわけではないが、この時期にクモが網を張る高さをウスバシロチョウが最もよくかかる高さに合わせているなどということがあるならば、非常におもしろい現象である。

残念ながらクモは採集しておらず、写真撮影しかしていない。この写真で山本一幸氏に同定をお願いしたところ、ヤマオニグモかヤマシロオニグモということであった。このような写真は今までの中からも数例見出せた。いずれにしても造網性のクモの一種がウスバシロチョウの成虫の天敵となっていることは間違いない事実である。